

日光門前における空間と営みからみた町家タイプと町並み
旧街道における町家の変化と町並みに関する研究(2)

正会員 ○ 高橋 広野*
同 安森 亮雄**
同 大嶽 陽徳***
同 小林 基澄****

日光門前 町家 町並み
営み 空間

1. 序 市街地の旧街道沿いでは地域固有の町家と町並みがみられるが、現代では建て替えや改修、道路整備等により、町家の空間構成や町並みが変化している^{注1)}。栃木県日光市の日光門前では長期にわたる道路整備が進められており^{注2)}、これから東照宮手前の鉢石地区が整備される予定で、今後の景観形成を考える重要な時期を迎えている。街道沿いには人々の営みが反映された様々なタイプの町家が並び、日光門前特有の空間と営みの重なりによる町家と町並みがみられる。そこで本研究では、今後整備予定の日光門前鉢石地区を対象に、町家と町並みを空間と営みの両側面から分析することで、町家タイプと町並みの特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 日光門前の概要 JR日光駅と日光東照宮の間に位置する日光門前は、日本橋から続く日光街道の終着点にあたる宿場であり、世界遺産「日光の社寺」の門前町として賑わう(図1)。街道の道路整備が江戸時代の門前町形成以来、交通手段の変遷とともに繰り返され(表1)、町並みの形成に影響を与えてきた。今回の道路整備は一区間あたり約5年をかけて進んでおり、現在では3区間目の御幸町まで進んでいる。今後は下鉢石町・中鉢石町・上鉢石町へと整備が進む予定で、完了区間からの経験を踏まえた準備や整備手法の検討が課題となっている。

3. 空間と営みからみた日光門前の町家

鉢石地区の街道沿い123敷地、町家106棟を対象に、空間と営みの両側面から調査を行った。

3.1 日光門前の町家における空間 屋根形状(表2)、下屋の有無・看板建築等の付属的要素(表3)、規模(表4)、外壁素材・開口部・屋根装飾・壁面装飾等の町家要素(表5)、看板・日除け・灯り等の設え要素(表6)、及び敷地構成(表7)を抽出し、それらの中で日光門前に特徴的な要素を「らしさ要素」に分類することで、日光門前の町家における空間タイプを導いた(表11横軸)。らしさ要素を持ち、切妻や入母屋等の勾配屋根を持つ日光勾配屋根型(A1~A4)、日光看板建築型(B1)、日光高層型(C1)、現代勾配屋根型(A5)、現代看板建築型(B2)、及び現代高層型(C2)の9つの空間タイプがみられた。

3.2 日光門前の町家における営み 前節と同様に、建物用途(表8)、生業(表9)、生活・仕事・祭り(表10)を抽出し、「らしさ要素」を整理することで、日光門前の町家における営みタイプを導いた(表11縦軸)。らしさ要素を持ち、職場と住居が一体の職住一体日光生業型(a1)、職住分離日光生業型(b1)、職住一体現代生業型(a2)、職住分離商業専用品(b2)、及び職住分離専用住宅型(c)の5つの営みタイプがみられた。

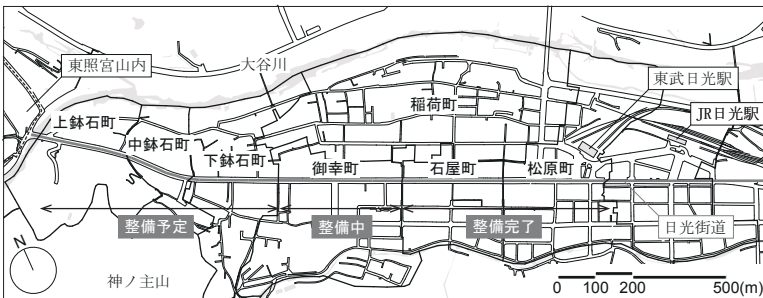


図1 日光門前の概要と道路整備状況

表1 交通の変遷からみた日光門前の歴史

年代	江戸	明治	明治末	大正-現在
交通	徒歩、駕籠	人力車、馬車	路面電車	自動車、鉄道
町並み				

表2 屋根形状 (123敷地、106建物)

切妻		寄棟		入母屋		陸屋根	
平入り	妻入り						
49	24	10	9				14

表3 付属的要素

下屋あり	看板建築	付属的要素				
		付け庇	屋上テラス	ピロティ	ベランダ	他
25	26	43	4	8	5	2

表4 規模

三階以上	二階	平屋
25	72	9

表5 町家要素

外壁素材			開口部			屋根装飾					壁面装飾					
漆喰塗り	石張り	土壁	板張り	ガラス張り	サイディング	木製建具	面格子	フタノキ	フタノキ	和瓦	影盛	化粧垂木	鎖種	付け柱	陳列棚	彫刻
13	5	3	2	5	3	29	28	17	8	9	17	32	3	31	15	3

表5注) らしさ要素を□で示す(以下同様)。

表6 設え要素

看板		日除け		灯り		その他	
屋根看板	屋形看板	大型看板	壁面看板	袖看板	立看板	暖簾	太鼓幕
40	7	5	26	34	17	17	3
						オーニング	提灯
						行燈	灯笼
						水鉢	ベンチ
						5	26
							56

表7 敷地構成

配置	別棟	
セットバック	蔵	祠
前面		
83	27	16

表8 用途

用途				
併用住宅	専用住宅	商業施設	宿泊施設	業務施設
75	14	5	5	4
				公共施設
				3

表9 生業

日光的生業 / 現代の生業				
ゆば料理屋	郷土料理屋	羊羹屋	他	飲食店
14	8	7	23	6
				事務所
				美容室
				他
				26

表10 生活・仕事・祭り

生活		仕事		祭り	
住んでいない	住んでいる	生産	調理	販売	他
80	26	25	33	48	14
					イベント
					8
					2

Typology of Machiya and Townscape from the aspects of Space and Life in NIKKO-MONZEN
Study on Transition of Machiya and Townscape in the Old Highway (2)

TAKAHASHI Koya
YASUMORI Akio
OTAKE Akinori
KOBAYASHI Motosumi

3.3 空間と営みからみた日光門前の町家タイプ 空間タイプと営みタイプを併せて検討することで、日光門前における7つの町家タイプを導いた(表11)。空間と営みの両側面かららしき要素を持つ二層勾配屋根の日光町家型(I)、看板建築の日光看板町家型(II)、日光高層町家型(III)、空間にのみらしき要素を持つ現代町家型(IV)、空間と営みのどちらにもらしき要素を持たない看板町家型(V)、商業専用町家型(VI)、及び専用住宅町家型(VII)といった日光門前における7つの町家タイプが明らかになった。日光町家型(I)には、面格子や化粧垂木等のらしき要素を多く持つ町家が多くみられた。また、専用住宅町家型(VII)には、駐車場を設けるためにピロティを設けたり、セットバックしているものが多くみられた。

4. 日光門前の町並み 3章で導いた町家タイプをもとに町並みの分析を行なった(図2)。上鉢石町においては高層の町家タイプが集中する箇所や、日光らしい町家タイプが集まった町並みがみられる箇所があることが明らかになった。一方、中鉢石町や下鉢石町においては異なる町家タイプが並び、町並みの連続性を欠いている箇所、歯抜けのヴォイドを生じた箇所、町並みの連続を乱すよ

うに町家が建つ箇所、及び空地の連担と周辺町家のセットバックによって町並みが大きく崩れている箇所等、今後の町並みづくりの課題となる箇所が明らかになった。

5. 結 日光門前における町家と町並みを空間と営みの両側面から検討した結果、日光門前に特徴的な7つの町家タイプと、町並みの特徴が明らかになった。さらに、異なる町家タイプの並びによる連続性の欠如、歯抜けのヴォイド、町並みの連続を乱すように建つ町家タイプ、及び空地やセットバックによる大きなヴォイドといった今後の町並みづくりの課題となる箇所が明らかになった。こうした分析から導き出される課題に対処していくことで、大きく変わりつつある町並みにおいても、「日光らしき」を失うことなく、これまでを次世代へと繋げる町並みを形成することができると思われる。

注1) 筆者らは参考文献において、宇都宮市中心市街地で区画整理が予定されている旧日光街道(清澄町通り)の町家と町並みについて報告した。参考文献を通し番号の(1)として、本編を(2)としている。

注2) 国際観光都市にふさわしい景観形成を図り、快適で安全な歩行空間を整備するため、歩道の拡幅及び電線類の地中化を行うもので、2003年から始まった。

参考文献

中岡進太郎、安森亮雄、他：旧街道における町屋の変化と町並みに関する研究、栃木県宇都宮市清住町通り旧日光街道を対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集(建築歴史・意匠)、pp. 367-368, 2014. 9

表11 空間と営みからみた日光門前の町家タイプ

空間タイプ	らしき要素あり (61)					らしき要素なし (32)					
	平屋・二階 (53)					三階以上 (8)		平屋・二階 (22)		三階以上 (10)	
	切妻平入下屋有型 A1	切妻平入下屋無型 A2	切妻妻入型 A3	人母屋寄棟型 A4	看板建築型 B1	高層型 C1	勾配屋根型 A5	看板建築型 B2	高層型 C2	高層型 C2	
営みタイプ	(8)	(14)	(8)	(13)	(10)	(8)	(7)	(15)	(10)	(10)	
職住一体型 a1	I 日光町家型 (42)	I 2 (7)	I 3 (10)	I 4 (5)	II 日光看板町家型 (7)	III 日光高層町家型 (4)					
職住分離型 b1						III 1 (4)					
職住一体型 a2		IV 現代町家型 (1)						V 看板町家型 (1)		(2)	
らしき要素なし (40)											
職住分離型 b2											
商業専用型 c2											
住宅専用型 c2							VII 専用住宅町家型 (6)				



図2 町家タイプからみた日光門前の町並み

* ビルススタジオ 修士(工学)
 ** 宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授 博士(工学)
 *** 宇都宮大学地域デザイン科学部 助教 博士(工学)
 **** 宇都宮大学大学院工学研究科 博士後期課程 修士(工学)

* Virus Studio, M. Eng.
 ** Assoc. Prof. Faculty of Regional Design, Utsunomiya Univ., Dr. Eng.
 *** Assist. Prof. Faculty of Regional Design, Utsunomiya Univ., Dr. Eng.
 **** Doctoral Course, Graduate School of Eng., Utsunomiya Univ., M. Eng.